

「命を繋ぐ水

く南海トラフ巨大地震に備えるく」

宇和島市立城東中学校

二年

井上 美咲

いのうえ みさき

水は、日常生活において必要不可欠なものです。蛇口をひねれば水が流れ、飲用水、食事、トイレなど当たり前に水を使っています。

令和七年四月に、ミャンマーで大地震が起きたと報道がありました。その被害は、家屋の倒壊、電気、通信網、水道が遮断され、人々が困窮しているという内容でした。また、市民が水をもらうために、長蛇の列をつくっている姿も映し出されていきました。

この報道を見て私は、令和六年八月に、宮崎県日向灘を震源とするマグニチュード七・一の地震が発生し、その後、南海トラフ巨大地震注意報が発表されたことを思い出しました。不安な日々を送っていたことを、今も覚えています。

南海トラフ巨大地震がいつか起こることは知っていましたが、実際に一週間の注意報が発表され、私はさらに、地震と水について考えることにしました。

まず、地震が起こることでのような水の被害が出るのかを考えました。様々な被害が生じると思いますが、今回は「断水」に注目しました。断水とは、水道が機能を停止し水を供給できなくなることです。南海トラフ巨大地震で断水になる主な理由は、地震の揺れや津波により水道管が破損し、浄水場が運転停止するからです。特に揺れが強い地域や津波浸水エリアでは、被害が大きく、断水が長期化する可能性があります。

次に、断水になることで、どのような被害が生じるのかを考えました。一つ目はトイレが流せないことです。トイレが流せないことで、害虫や感染症の発生リスクが高まります。二つ目は手や体が洗えない

ことです。入浴などができないことで、ストレスがたまり体調を崩す人が出るかもしれません。三つ目は飲み水が確保できないことです。人が水を飲まなくても生活できる時間は、一般的には二〜三日程度です。宇和島市が想定する南海トラフ巨大地震の被害規模を考えると、飲み水は不足すると考えられます。

断水になったとき、被害を少なくするために、今の私たちにできることを二つ考えました。

一つ目は水を備蓄しておくことです。私たちは一日で、約二・五リットルの水分が失われます。このため、一日三リットル×七日分（二一リットル）を用意しておくと思います。地震が起きた際、湯船に水をためておくことも大切だと思います。二つ目は、市の給水所を把握することです。給水所までの道順や、距離を知っておくことで、いざというときにスムーズに水汲みに行けます。また、給水所にはポリタンクだけでなく、リュック型の給水袋もあるので、自分の状況に合わせて用意しておくと便利です。

水は、私たちの生活を支えてくれる大切な存在ということが分かりました。水について調べたところ、世界では約四人に一人が、綺麗な水を飲めない環境にいると知り、日本は裕福な国だと改めて感じる事ができました。

SDGsの六番は「二〇三〇年までに、誰もが安全な水を安い価格で利用できるようにする」です。

この目標を達成できるよう、また南海トラフ巨大地震で断水の被害が少なくなるように、節水や水の備蓄などを行っていききたいです。これからも、綺麗な水を飲めることに感謝しながら日々生活したいです。